

DNPのCSR

CSR(Corporate Social Responsibility)は「企業の社会的責任」と一般的に訳されますが、DNPはCSRを「信頼される企業になること」であり、経営理念を具現化することにほかならない、と考えています。2001年に発表した「DNPグループ21世紀ビジョン」と国際的な規範を『前提』として、企業が一体となった『体制』で、果たすべき3つの責任を『実践』することでDNPはCSR経営を推し進め、企業の成長と持続可能な社会の実現を目指していきます。

前提

DNPグループ21世紀ビジョン／行動規範

DNPグループ21世紀ビジョンは「経営理念」「事業ビジョン」「行動指針」で構成され、DNPの社会に対する貢献の意思とその方向性を示しています。

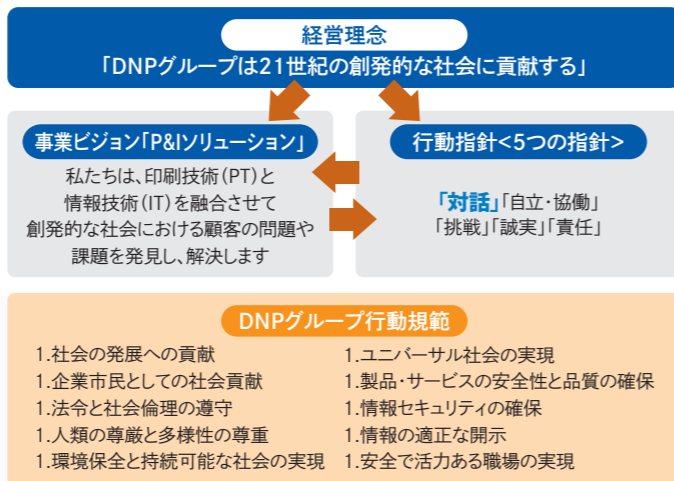
また、DNPグループ行動規範は、「経営理念」を実現していくあらゆる活動の前提となるもので、これにしたがい、全社員が高い倫理観にもとづいた誠実な行動をとるように努めています。

これらは、社会の課題解決に寄与する高い価値を創出し続けるDNPの「社会との約束」ともいべきものです。

国際的な規範

市場やサプライチェーンが世界中に広がるビジネスを行っている現在、国際的な規範に則った事業活動を行っていくことは当然のこととDNPは考えます。

2006年7月に国連グローバル・コンパクト(GC)へ賛同を表明し、GCが定める「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の10原則を支持し、これらの精神をグループ経営に反映させていくように努めています。また、ローカルネットワークである、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークにも加入し、日本企業との連携を図っています。ほかにも、国際的な社会的責任に関するガイドラインであるISO26000や関連する国際条約・国際協定などの理念を尊重しています。

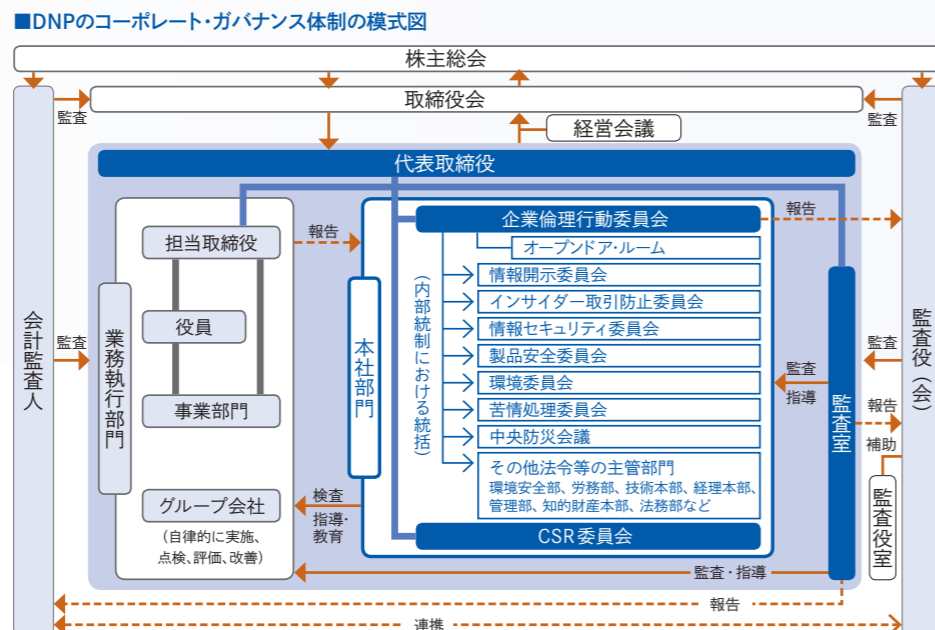


体制

コーポレート・ガバナンス

DNPは、あらゆるステークホルダーから信頼される企業となるために、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要課題と考えています。

経営や業務執行およびそれらの監督・監査に関する体制を構築・運用するとともに、社員の研修・教育を徹底し、総合的にコーポレート・ガバナンスの充実が図れるよう努めています。



実践

信頼される企業であり続けること

DNPは「あらゆるステークホルダーから常に信頼される企業であり続けること」を目指しています。そして、その実現のために、『価値の創造』『誠実な行動』『高い透明性(説明責任)』という「果たすべき3つの責任」をしっかりと遂行していきます。具体的には、12の重点テーマとそれぞれの目標を設定し、継続的な改善活動を行っています。(7~14、27ページ参照)

また、CSR活動を進めていく際には、DNPに関わる多様なステークホルダー(顧客、生活者、株主、サプライヤー、地域社会、社員など)との「対話」が欠かせません。DNPでは、単にコミュニケーションをとるということではなく、互いの悩みや課題を共有し、それをどうやって解決するかを話し合い、その実現をともに目指すという意味の「対話」を重視しています。「対話」を通じて、DNPからの適切な情報発信を行うとともに、ステークホルダーの皆さまから意見や期待をいただくことで、企業活動の質を高めていきます。

果たすべき3つの責任

1. 価値の創造

企業が社会のなかで果たすべき最も根源的な第1の責任は「**社会に対して価値を提供する**」ことです。社会の持続可能な発展のために必要な製品やサービスを提供することで、企業も成長していくという関係づくりが求められています。DNPは事業ビジョン「P&Iソリューション」を通じて、社会の課題解決に寄与する高い価値を提供し続けていきます。

2. 誠実な行動

第2の責任は「**価値創造のプロセスを公正・公平に遂行する**」ことです。生み出した価値がどれほど優れ、社会に役立つものであっても、価値創造プロセスで環境を破壊したり、法に抵触したりすれば、その価値は損なわれます。DNPの全社員が「DNPグループ行動規範」に則り、常に誠実に行動していくことで、この責任を果たしていきます。

3. 高い透明性(説明責任)

第3の責任は、社会に対して「**説明責任を果たし、透明性の高い企業になる**」ことです。DNPは、全社員が日々の業務においてステークホルダーと「対話」し、相手の意見を聞き、かつ自らも正しい情報を提供していくことで、説明責任を果たしていきます。

企業の成長と持続可能な社会の実現へ

DNPのCSR

CSR推進体制

DNPは、CSR活動を推進する専任部署を設け、さらにその上位組織として、本社担当取締役・役員で構成するCSR委員会を設置しています。CSR委員会では、経営方針に則し、CSR活動に関する方針や中期・年度目標などを審議し、決定しています。CSR委員会で決議された中期・年度目標をもとに、それぞれの重点テーマ(下記参照)の所管部門とCSRの専任部署とが連携し、具体的な活動を進めています。

また、企業倫理や環境など、CSRに関する主要テーマについては、CSR委員会とは別に専門委員会を設置しています。各委員会は独立していますが、互いに情報共有などの連携を行い、全体として企業価値が向上することを目指しています。

重点テーマの設定

具体的にCSR活動を進めていくために、DNPと社会の双方の視点で重要性を分析した上で、推進すべき重点テーマを設定しています。

社会の視点での重要性については、国連グローバル・コンパクトの10原則、社会的責任に関する国際的ガイドラインISO26000を中心に、関連する国際条約・国際協定、SRI(社会的責任投資)が重要視する社会課題、ステークホルダーからのご意見などを参考に十分な検討を行っています。DNPの視点での重要性は、経営方針や事業の内容・範囲などから抽出して分析しています。これらを掛け合わせ、以下の12の重点テーマを設定しました。

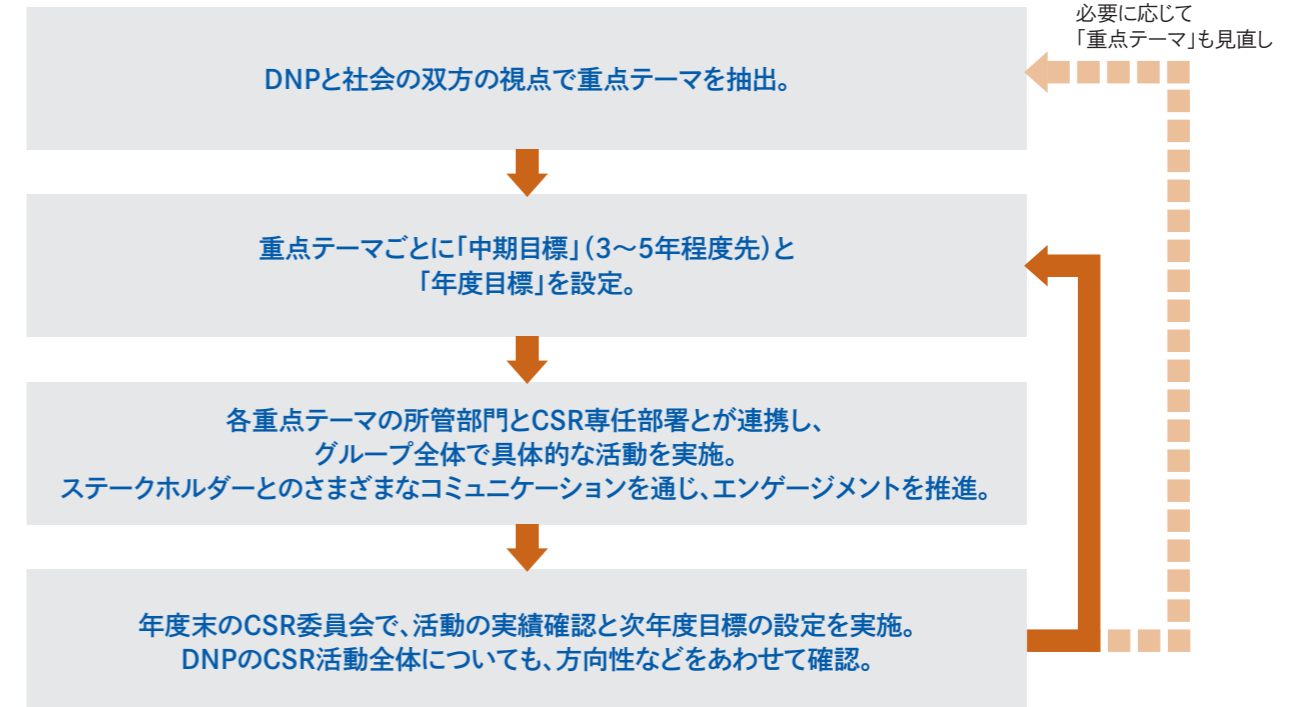
重点テーマ

果たすべき3つの責任	DNPのCSR活動 重点テーマ	対応する主なISO26000中核主題
第1の責任「価値の創造」	社会の発展への貢献	消費者課題、コミュニティへの参画及びコミュニティの発展
	人類の尊厳と多様性の尊重	人権、労働慣行
第2の責任「誠実な行動」	安全で活力ある職場の実現	人権、労働慣行
	ユニバーサル社会の実現	消費者課題
	製品・サービスの安全性と品質の確保	消費者課題
	情報セキュリティの確保	消費者課題
	サプライチェーンを通じた社会的責任の推進	公正な事業慣行、人権、労働慣行、環境、消費者課題
	企業市民としての社会貢献	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展
	環境保全と持続可能な社会の実現	環境、消費者課題
第3の責任「高い透明性(説明責任)」	情報の適正な開示	公正な事業慣行、労働慣行
3つの責任の前提	法令と社会倫理の遵守	公正な事業慣行、人権
	事業継続のための体制構築	公正な事業慣行、消費者課題

継続的な改善活動

DNPでは重点テーマを軸にそれぞれの目標を定め、さまざまなCSR活動を進めています。1年を1サイクルとして、年度末にCSR委員会でCSR活動の実績を確認し、次年度の目標を設定しています。同時に、DNPのCSR活動が社会からの期待とずれていないか、しっかりと社会に貢献できているかを確認し、継続的な改善活動につなげています。

PDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルのプロセス



ステークホルダー・ダイアログを実施しました。

2015年1月23日(金)、一般社団法人CSRレビューフォーラム(CRF)*の4名のレビューアーの方々とステークホルダー・ダイアログを行いました。これは、DNPのCSR活動について、前年度の目標・実績を中心に、社会からの声をいただく場としての新たな試みです。社会の動向やDNPの活動についての活発な意見交換がなされました。CRFからは、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組もうとするDNPの姿勢やCSRマネジメントを議題としたステークホルダー・ダイアログを開催したことについて評価をいただきました。また、CRFからは提言をいただくとともに、本報告書に対する第三者としてのご意見を寄せていただきました。(33ページ参照)



*CRFは、持続可能な社会の実現に向けて、社会課題の解決に取り組む複数の市民組織(NGOや消費者団体等)またはそこに所属する個人がアライアンスを組んで設立した民間の非営利組織です。社会的責任に関する国際規格「ISO26000」をベースに、企業活動への第三者レビューを行う「CSRレビュープログラム」を提供しています。